令和６年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

自然環境課

１　施設の概要等

施　設　名	野呂山公園施設		
所　在　地	呉市川尻町板休		
設　置　目　的	すぐれた風景地である自然公園の利用の増進を図り、もって県民の保健、休養及び教化に資する。		
施　設　・　設　備	オートキャンプ場、公衆便所、休憩所、展望台、歩道、車道、駐車場施設等		
指　定　管　理　者	５期目	R6.4.1～R11.3.31	(一財)野呂山観光開発公社
	４期目	H31.4.1～R6.3.31	(一財)野呂山観光開発公社
	３期目	H26.4.1～H31.3.31	(一財)野呂山観光開発公社
	２期目	H21.4.1～H26.3.31	(一財)野呂山観光開発公社
	１期目	H18.4.1～H21.3.31	(財)野呂山観光開発公社

２　施設利用状況

	年度		目標値［事業計画］	入場者数	対前年度増減	対目標値増減（達成率）
利用状況	５期	R6	5,500 人	4,468 人	△753 人	△1,032 人(81.2%)
	４期平均 R1～R5		5,200 人	5,221 人	△134 人	21 人(100.4%)
	３期平均 H26～H30		5,424 人	5,355 人	340 人	△69 人(98.7%)
	２期平均 H21～H25		4,110 人	5,015 人	1,863 人	905 人(122.0%)
	１期平均 H18～H20		－	3,152 人	528 人	－
	H17（導入前）		－	2,624 人	－	－
増減理由	小中学校による課外活動の誘致に力を入れた結果、令和６年度は過去最高の 21 校の誘致に成功した。しかし、例年以上の猛暑や、冬季は強い寒波の到来により利用者の減少幅が大きく、目標を達成できなかった。					

３　利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象･人数】
	ヒアリング実施	キャンプ場利用者　91 件
	【主な意見】	【その対応状況】
	トイレの清掃に力を入れてほしい。	定期的に施設を巡回することで清掃を丁寧に行った。
	スタッフの対応が丁寧だったので、キャンプを楽しめた。	引き続き利用者の問い合わせにきめ細かく対応していく。

４　県の業務点検等の状況

項　目		実績	備　考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	月次業務実績報告書
	日報（必要随時）	－	－
野呂山運営協議会（２回・現地）	【特記事項等】 施設の維持、老朽化対策 【指定管理者の意見】 利用者を増やすためには、古くなった施設の整備が必要である。 【県の対応】 指定管理者と連携して、計画的に修繕を実施する。		
現地調査（３月）			

５　県委託料の状況

（単位：千円）

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
県委託料（決算額）	５期	R6	5,303	319	料金収入（決算額）	５期	R6	3,779	△692
	４期平均 R1～R5		4,984	923		４期平均 R1～R5		4,471	1,175
	３期平均 H26～H30		4,061	113		３期平均 H26～H30		3,296	532
	２期平均 H21～H25		3,948	0		２期平均 H21～H25		2,764	1,310
	１期平均 H18～H20		3,948	△364		１期平均 H18～H20		1,454	103
	H17（導入前）		4,312	－		H17（導入前）		1,351	－

６　管理経費の状況

（単位：千円）

項　目			R6 決算額	R5 決算額	前年度差	主な増減理由等
委託事業	収入	県委託料	5,303	5,053	250	人件費高騰対策に係る委託料の増
		料金収入	3,779	4,491	△712	宿泊利用者数の減少による減
		その他収入	41	24	17	
		計（A）	9,123	9,568	△445	
	支出	人 件 費	6,877	6,414	463	小中学校による課外活動での施設利用が計画を上回ったことによる増
		光熱水費	1,599	1,545	54	
		設備等保守点検費	1,030	910	120	し尿汲取り料（単価）の高騰による増
		清掃・警備費等	401	419	△18	
		施設維持修繕費	710	460	250	寒波による水道修繕費の増
		事務局費	33	30	3	
		その他	676	821	△145	
		計（B）	11,326	10,599	727	
	収支①（A－B）		△2,203	△1,031	△1,172	
自主事業（※2）	収　入（C）		－	－	－	
	支　出（D）		－	－	－	
	収支②（C－D）		－	－	－	
合計収支（①+②）			△2,203	△1,031	△1,172	

※1　利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。
指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2　自 主 事 業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7　管理運営状況

項目		指定管理者 （事業計画、主な取組、新たな取組など）	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	幅広い世代を対象とした各種イベント（手ぶらでキャンププラン、野外料理教室等）を継続して実施した。	施設の利用促進を図るためのイベントを企画し、実施している。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	利用者のニーズや社会情勢に合った事業を行った。	キャンプの知識が豊富な職員をキャンプ場に常駐させる事により、利用者のニーズに対応できるようにしている。
	○業務の実施による、施設の利用促進	ファミリー層向けプランのチラシを呉市や近隣の東広島市内の小中学校に配布することで、新規利用者やリピーターの獲得に繋げた。	野外活動を実施する場として、呉市や近隣の東広島市内の小中学校を中心に昨年度より多く利用されており、更なる利用促進も行っている。
	○施設の維持管理	定期的に施設内を巡回することで清掃管理を徹底した他、県と連携して適宜修繕を行った。	清掃や草刈りの適切な実施により快適な施設環境の維持に努めている他、トイレ等修繕が必要となった設備については県と連携し計画的な修繕を行っている。
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	利用者のニーズに臨機応変に対応するため、キャンプ場に常駐する職員を配置した。	利用者の満足度向上を図るため、適時適切な人員配置を行っている。
	○効率的な業務運営	観光情報や緊急時の対応を周辺施設（野呂高原ロッジ）と共有することにより、一体的な管理運営を行った。	周辺施設と連携し各種情報を共有することで、円滑な施設の管理運営に努めている。
	○収支の適正	施設の安定的な利用のために野外活動を多く受け入れたことで人件費がかかり、結果として赤字となった。	施設利用者増加の取組が経費に大きく影響しないように、収支の見直しが必要である。
総　括		令和６年度は寒波が例年より厳しく、利用者の安全確保のために受け入れを断ることもあった。 公園施設の安定的な利用を目指すべく、令和６年度は小中学校による野外活動誘致に力を入れた。その結果、過去最多数の小中学校誘致に成功したため、来年度はさらなる増加を目指す。	引き続き団体利用促進のための広報に取り組むとともに、利用者アンケートの結果を運営や施設管理に反映させることで利用者増に努める必要がある。 引き続き利用者の安全を第一に、天候に留意しながら臨機応変な運営に努めていく必要がある。

8　今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 （令和７年度）	キャンプブームがひと段落した事によって他キャンプ場との競合が激化しているが、野呂山の魅力である自然の豊かさをアピールしていくことや施設清掃や周辺環境の整備に力を入れることで利用者の満足度を向上させ、リピーターの確保に繋げる。	野呂山の魅力を発信していくとともに、必要な環境整備を行うなど利用者ニーズに合った対応を実施し、利用者数増に努めていく必要がある。
中期的な対応	キャンプ場スタッフは接客の他に施設の維持管理業務も担当しているため、現在の人員では人出が足りない時期がある。周辺施設と連携し業務を分担することで、年間を通して安定したサービス提供を目指すとともに、人件費削減及びキャンプ場の維持に努める。	同事業者が管理する周辺施設と連携し、更なる業務の効率化を図る必要がある。引き続き指定管理者との協議を進めながら、必要な支援を行う。